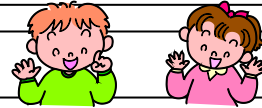




おりひがっこ

子どもたち一人一人が笑顔ですごす学校をめざして



JICA研修生(アフリカ諸国の方)との交流をしました。7/1:5年

JICA(国際交流機構)で、日本に様々な技術等を学びに来られているアフリカ諸国の方が、本校5年生の外国語活動のGT(ゲストティチャー)として来校されました。はじめは緊張気味だった子ども達も、すぐに仲良くなり、名刺交換・ゲーム・校内の案内など楽しく交流ができました。



学校保健委員会で、栄養と健康の学習をしました。7/2:5. 6年

5・6年生の保健委員が中心となって、学校保健委員会が開かれました。学校医の岩崎先生が、水分補給の大切さや食事と栄養についてお話をしていただきました。子ども達の好きな野菜・嫌いな野菜ランキングや子ども達から出された質問にも丁寧に答えていただきました。詳しくは「保健だより」をご覧ください。



かん・びんの選別体験をしました。7/10:4年

4年生は、社会科で「ごみはどこへ」という市のごみ処理についての学習をしています。社会見学で、行った本城かんびん資源化センターでは、働いている方に教えていただきながら、「かんびんの選別体験」をさせていただきました。どの子も一生懸命作業をしていました。そして、身をもって、大切なことを感じ、考えていました。学習に生かしていきます。



子は親の鏡

ドロシー・ロー・ノルト

けなされて育つと、子どもは人をけなすようになる
 とげとげした家庭で育つと、子どもは乱暴になる
 不安な気持ちでそだてると、子どもも不安になる
 「かわいそうな子だ」と言っていると、子どもは惨めな気持ちになる
 子どもを馬鹿にすると、引込みじあんな子になる
 親が他人をうらやんでばかりいると、子どもも人をうらやむようになる
 叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
 励ましてあげれば、子どもは自信を持つようになる
 広い心で接すれば、我慢強い子になる
 ほめてあげれば、子どもは明るい子に育つ
 愛してあげれば、子どもは人を愛することを学ぶ
 認めてあげれば、子どもは自分が好きになる
 見つめてあげれば、子どもは頑張り屋になる
 分かち合うことを教えれば、子どもは思いやりを学ぶ
 親が正直であれば、子どもは正直であることの大切さを知る
 子どもに公平であれば、子どもは正義感のある子に育つ
 やさしく思いやりをもって育てれば、子どもは優しい子に育つ
 和気あいあいとした家庭で育てば、
 子どもはこの世の中はいいところだと思えるようになる

「私がこの詩で伝えたいことは、とてもシンプルです。子どもは常に親から学んでいるということです。あるお母さんは、この詩をトイレに貼っているそうです。あるお父さんは作業台の上にはっているそうです。二人とも、子育てでつまずいた時、この詩を読んで、親としての自分を考え直し、元氣を取り戻すことができたそうです。」とアメリカの教育家ドロシー・ロー・ノルトさんは述べています。難しいことを言っているのでも、完璧な親を求めているのでもありません。むしろ、理想のようにはいかない現実も認めた上で、子どもの姿から学び、親もまた、子どもと共に成長し、学び、親子のきずなを深めることを願ってこの詩を書かれたそうです。「子どもが育つ魔法の言葉」(PHP文庫)にはこの詩のそれぞれの行について詳しく例がかかれています。校長室の前においておきますので興味のある方はお読みください。